

ちがいを認め合うということ

守山南中学校一年 吉田 玲音

私は総合の授業で、「あっていいちがいとあってはいけないちがい」

について学びました。その時に、A社には障害者専用スロープがあるが、B社にはスロープが無いというちがいについて班で話し合いました。私は、悩みましたがB社にも事情があるのではない、あ

っていいちがいだと考えました。しかし、班で話し合うと、事情があるからスロープをつけないことは、障害者が来ないようにしているのと同じだという意見が出ました。私はその時あってはいけないちがいだと考えることが出来ました。私は、自分一人の意見だけでちがいを認め合うことは難しいのではないかと思いました。実際に

日本でも日本以外の国でも自分と同じ意見の人とだけ話し合うことで、人種差別、男女差別、いじめなどが起きています。それが原因で戦争になり、人々の自由がどんどん失われていっています。社会全体を見ても、私たちは多様な人々と関わり合いながら生活しています。考え方が違うからこそ、新しい発想が生まれたり、文化が違

できないと感ずることもあります。しかし、その瞬間こそ相手の考え方を知る大切な機会だと思いました。自分とは違う視点に触れることで、物事をより広く見られるようになり、自分の考えも深まっています。ちがいは対立の原因ではなく、成長のきっかけにもなると思いました。ちがいを認めるということは、単に受け入れるだけではなく、それを尊重することでもあります。異なる意見や考え方が出たとき私たちはそれを否定したくなります。しかし相手を持っている意見や立場はその人の価値観などから生まれたものです。なので、その考え方を尊重することが必要です。

最後に、ちがいを認めることは、私たちがどれだけ多様な価値観を持っていたとしても、共に生活していくためにはとても大切なことだと思います。私たちは他の人と会話をすることで、新しい価値観や視点を得ることができ、それによって自分の世界が広がります。ちがいを認め合うことによって、差別やいじめが少しでも減ると人々の生活がより豊かになり、暮らしやすい世の中になっていくと思います。